

100号記念特別企画「俳句大会」

『大鉦協』100号記念企画として俳句大会を実施したところ111名の方から208句のご応募をいただきました。本号表紙に掲載された3枚の写真を題材として、感性豊かな味わい深い作品が多く集まりました。特選に選ばれた3句、そして入選作12句を久保純夫先生のご選評と共にご紹介致します。

特選(3句)

行く^ゆ春^{はる}に
ゆがんでみえた
鉛^{なまり}色^{いろ}

(株)コノエ

渡瀬友結さん(14)(渡瀬裕行様 御息女)

中高生の部 題材:蒸気機関車の車輪

〔選評〕春には多くの出発があります。その春が去ろうとしている状況には何かしらの感懐があることでしょう。鉛色の物体が歪んでみえるのは、少し鬱屈したものがあるのかもしれませんが。

荒梅^{あらづめ}雨^ゆや
タワーの螺子^{ねじ}の
緩^{ゆる}みなき

由良産商(株)

内田 茂様(67)(内田庸友様 御父様)

成人の部 題材:東京タワー

〔選評〕最近では荒梅雨という語よりも、線状降水帯などという言葉が日本列島を席捲しているかもしれません。そんな状況の中でも、塔はびくともしません。螺子というものの存在の確かさがよく出ています。

見る場所^{ばしょ}で
表情^{ひょうじょう}違^{ちが}う
赤^{あか}い塔^{とう}

サンコーインダストリー(株)

森 彩乃様(24)

成人の部 題材:東京タワー

〔選評〕さまざまな「もの」、この句の場合の「赤い塔」はその人によって表情が異なります。想い、記憶がこもっているからです。つまり場所とは作者の心のありどころでしょう。

入選(12句)

車^{しゃ}りんたら
ぎんがてつどう
ゆめ^み見^みてる

(株)コノエ

渡瀬瑛友さん(9)(渡瀬裕行様御子息)

小学生の部 題材:蒸気機関車の車輪

〔選評〕 ぎんがてつどうという言葉には、宮沢賢治や999の世界がこもっています。地上にある車りんはそういう世界を夢見ているのでしょうか。その擬人化が作者の想いと重なっていい句になりました。

梅^{つゆ}雨^ば晴^ばれに
今^{いま}この瞬間^{しゆんかん}
そびえ立^たつ

ケイエスティ(株)

香川千秋さん(11)(香川敦子様御息女)

小学生の部 題材:東京タワー

〔選評〕 梅雨の時期は蒸し暑い。そんな時にも時おり太陽が顔を出します。その青空は高塔の存在感を際立たせるのです。

スチームの
心^{こころ}地^ちよき音^ねに
馳^はせる夏^{なつ}

(株)コノエ

大津高明様(48)

成人の部 題材:蒸気機関車の車輪

〔選評〕 蒸気機関車は暑い夏の季節にあっても懸命に走る。その音に作者は心地よさを感じているのです。

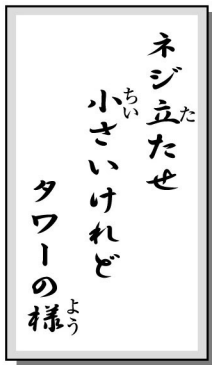
のっそりと
止^とまる車輪^{しゃりん}や
雲^{くも}の峰^{みね}

大西鉄螺(株)

大西陽子様(74)(大西啓文様御母様)

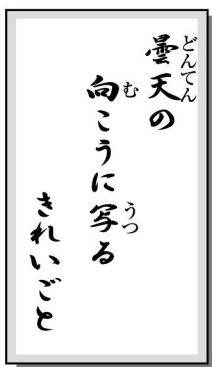
成人の部 題材:蒸気機関車の車輪

〔選評〕 のっそりという表現で、大きな車輪だとわかる。大仕事を果たした機関車。背景にある入道雲に不穏な感じもうかがえる。



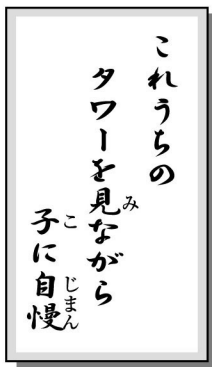
大西鋌螺(株)
奥山明彦 様(48)
成人の部 題材:東京タワー

〔選評〕大きいものを小さく、微小なものを巨大に表現するのは俳句形式のひとつの手立てです。ネジ遊びの様子がうかがえて、愛らしい感じです。



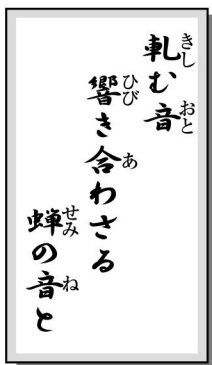
由良産商(株)
北野真希 様(35)(北野寛幸 様 奥様)
成人の部 題材:東京タワー

〔選評〕コロナ禍の世界にあって、表面だけを取り繕う人や組織が露わになっています。「曇天」がその象徴でしょう。ただその向うにある、きれいごとは、何かしらの希望とも読むことができるでしょう。



サンコーインダストリー(株)
指輪健二 様(36)
成人の部 題材:東京タワー

〔選評〕子どもに自慢できる仕事があったのは、嬉しいことでしょう。それに感動してくれれば、何もいうことはないのですが・・・。



サンコーインダストリー(株)
嶋田 元 様(47)
成人の部 題材:蒸気機関車の車輪

〔選評〕動輪が止まる音と蝉時雨の競演。それは互いの立場を強調するわけではなく、讃え合っているという意識が作者の心根でしょう。

真^まつ赤^かつか
リベ^りット打^うらこむ
日^ひの技^{わざ}や

サンコーインダストリー(株)
下司恵美 様(32)
成人の部 題材:東京タワー

〔選評〕 鉄を打ち込むにも素人にはわからない緻密な技術が必要なのだろう。そういう誇らしさがあふれています。

カシメ^か屋^やと
リベ^りットに支^さえられ
63^{ねん}年

(株)コノエ
丹下昌子 様(34)
成人の部 題材:東京タワー

〔選評〕 単なる報告のような表現ですが、確かに詩の世界があります。作者の想いの深さでしょう。

電^{でん}波^ぱ塔^{とう}
近^{ちか}くで
見^みれば
鉄^{てつ}だらけ

大西鉄螺(株)
新田英介 様(45)
成人の部 題材:東京タワー

〔選評〕 巨大な塔はさまざまな部分に支えられてひとつの構造物になっている。鉄だらけ、という表現が愛情のあらわれでありましょう。

世^よの^{なか}の
エ^えコ^こで
廃^{すた}れる
動^{どう}力^{りき}源^{げん}

(株)コノエ
長谷俊郎 様(64)
成人の部 題材:蒸気機関車の車輪

〔選評〕 化石燃料は地球温暖化の原因とされ、徐々に地球上からなくされようとしている。当然のこととは思っても、何となく悲しい。

〔選者〕 久保 純夫(くぼ すみお) 先生
1949年大阪府生まれ。現代俳句協会副会長、関西現代俳句協会会長。受賞歴として1979年第8回「花曜賞」、1986年第15回「六人の会賞」、1993年第42回「現代俳句協会賞」を受賞。
著書に句集『瑠璃薔薇館』『水渉記』など

◆題材写真提供=(有)金属産業新聞社 紙面企画「ねじ色百景」より
※大会の賞品及び参加賞は追って組合事務局より送付致します。